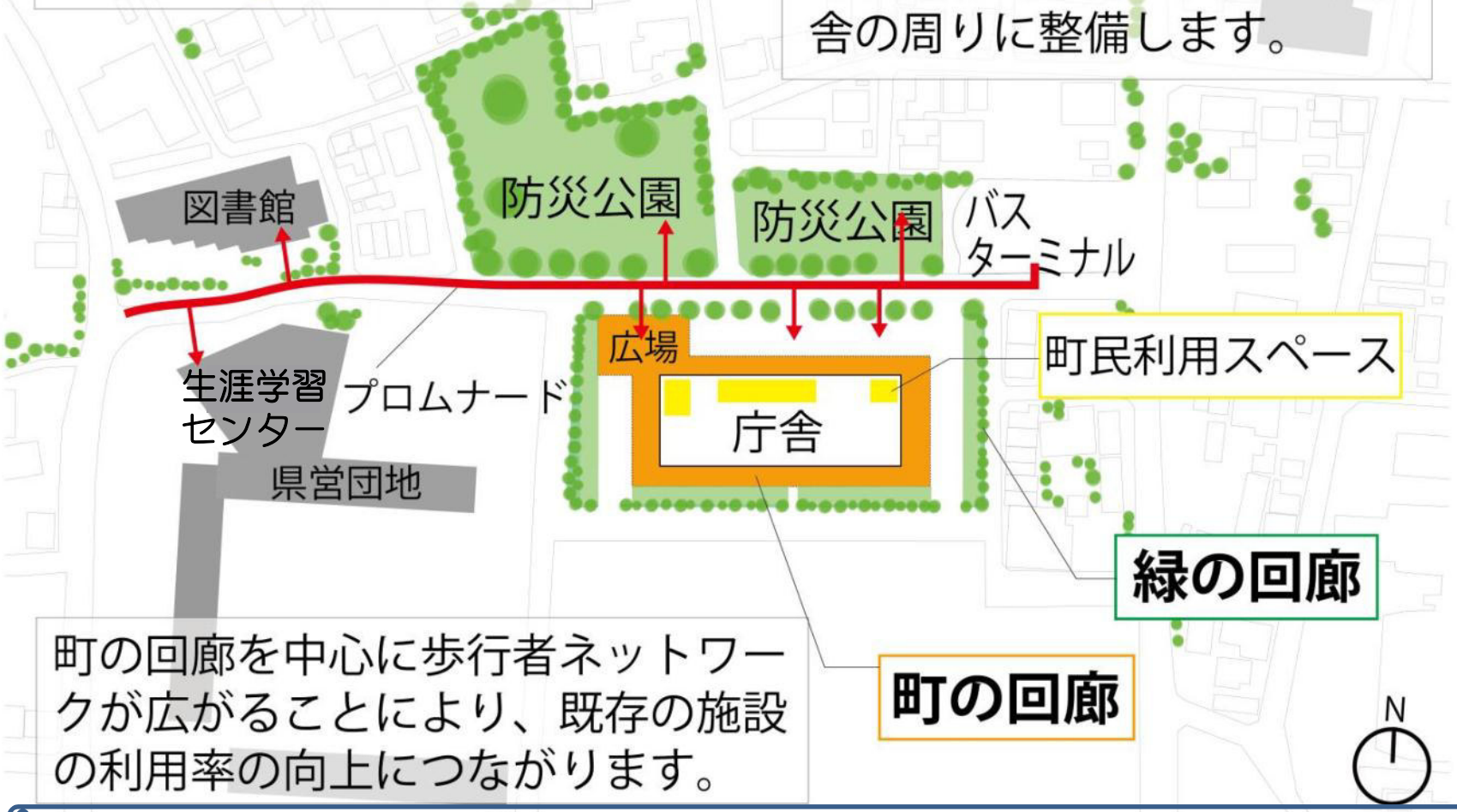
北方町新庁舎建築工事

周辺施設と新庁舎のネットワーク

公園と庁舎は町の回廊とプロムナードで一体的に使用することができます。

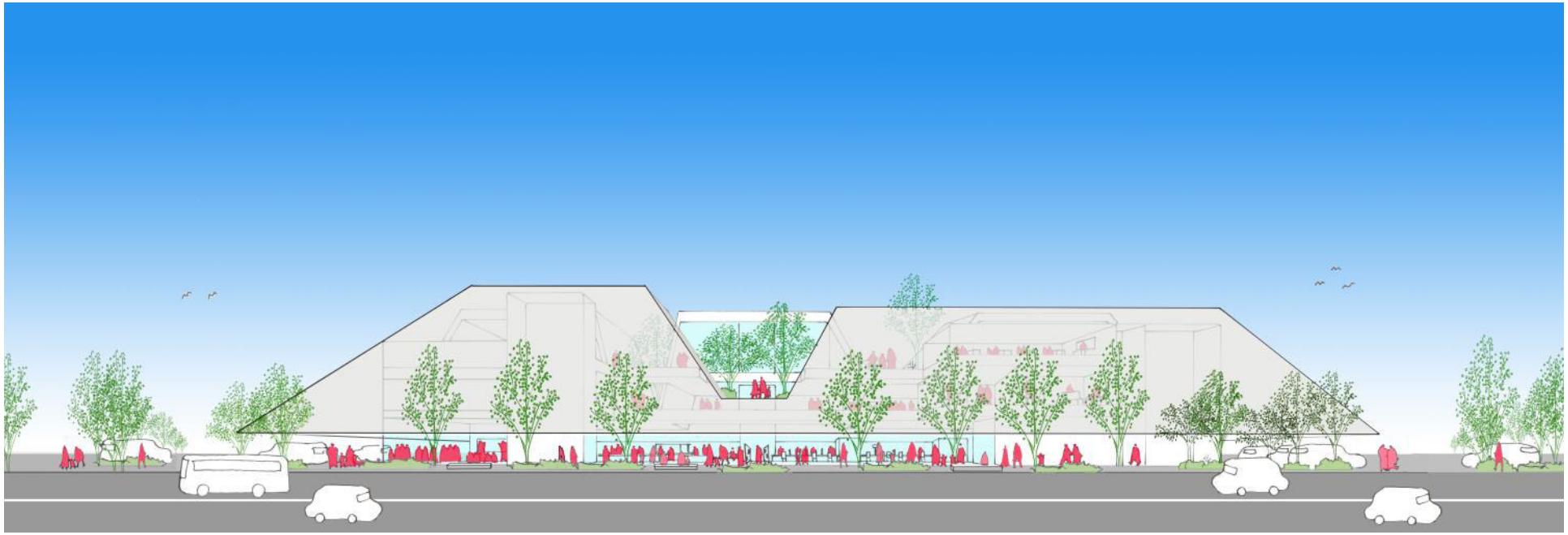
公園都市として、20ヶ所の公園（避難地）がある北方町で、中心的な緑の回廊を新庁舎の周りに整備します。



町の回廊を中心に歩行者ネットワークが広がることにより、既存の施設の利用率の向上につながります。

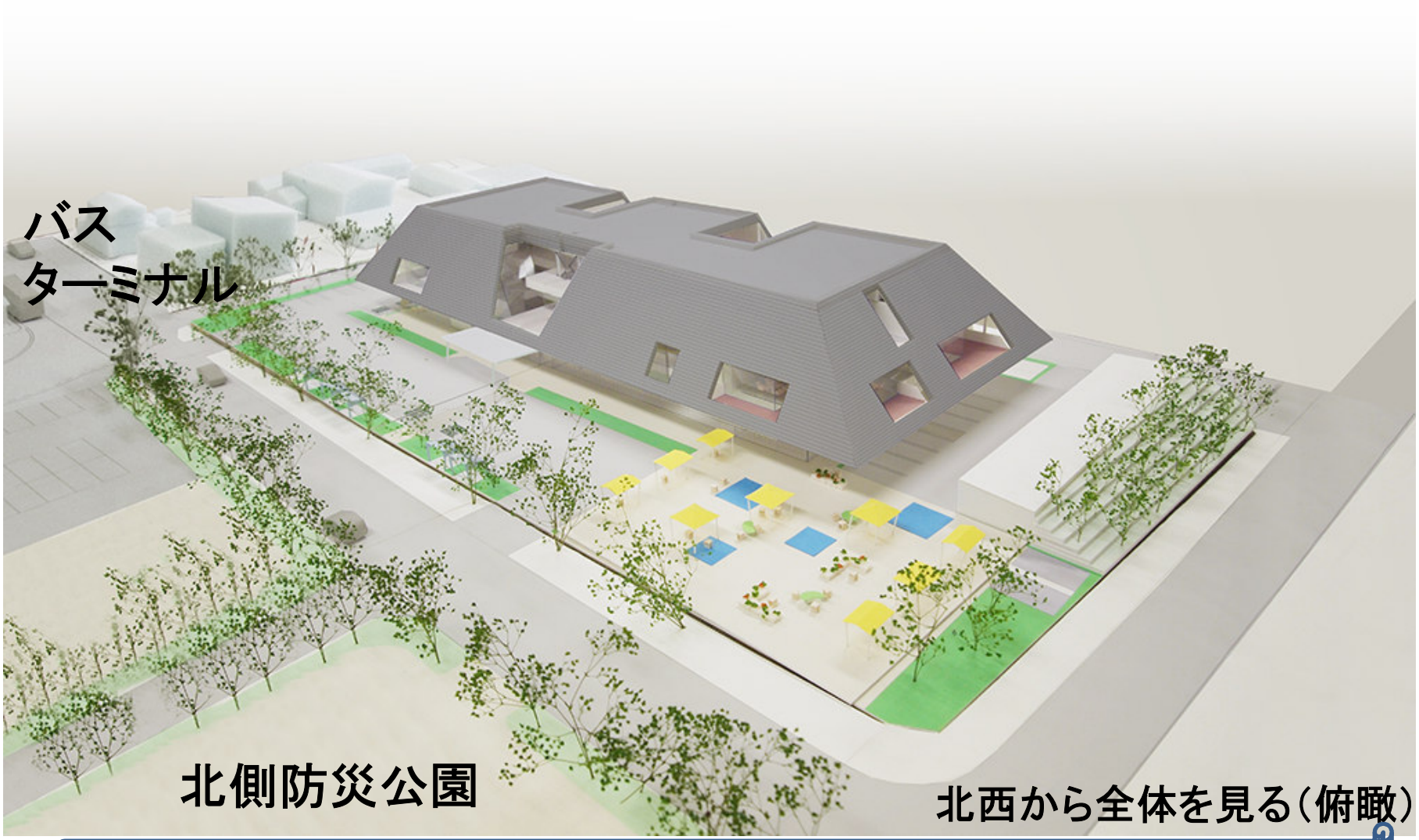
「公園都市」、「人間都市」という町の大きな方針に則して、人々の活動が建物から敷地の外まで広がるように、建物の内外を繋ぐ町の回廊、敷地の内外を繋ぐ緑の回廊をつくります。さらに、防災公園との接続性を高め、バスターミナル、図書館、生涯学習センターをつなぐプロムナードに面して、憩いの場となる広場を敷地内に設けました。

大屋根の下に人々が集う開放的な庁舎



北方町新庁舎のシンボルは大屋根と、その下に集う人々の活動です。
大屋根の軒下を活用したフリーマーケットなど、様々な活動が展開できます。

人々の生き生きした活動と大屋根が北方町のシンボル

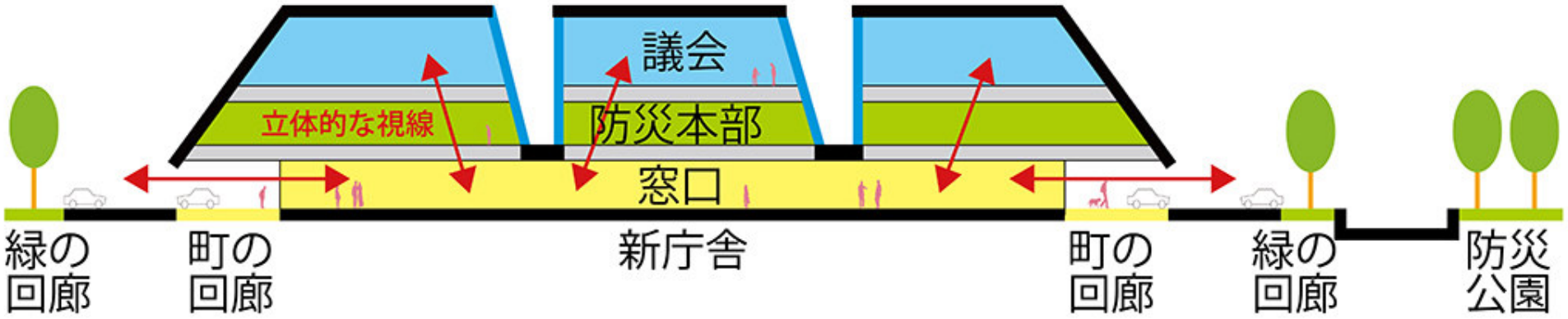


防災公園側に配置された広場側からみた庁舎です。
日本古来の大屋根と縁側を参照して、日本の気候風土に適した、自然エネルギーを最大限に生かせる建築とします。
セットバックした大屋根が周辺環境に対しての圧迫感を軽減します。

活動〈アクティビティ〉が北方町の風景をつくる

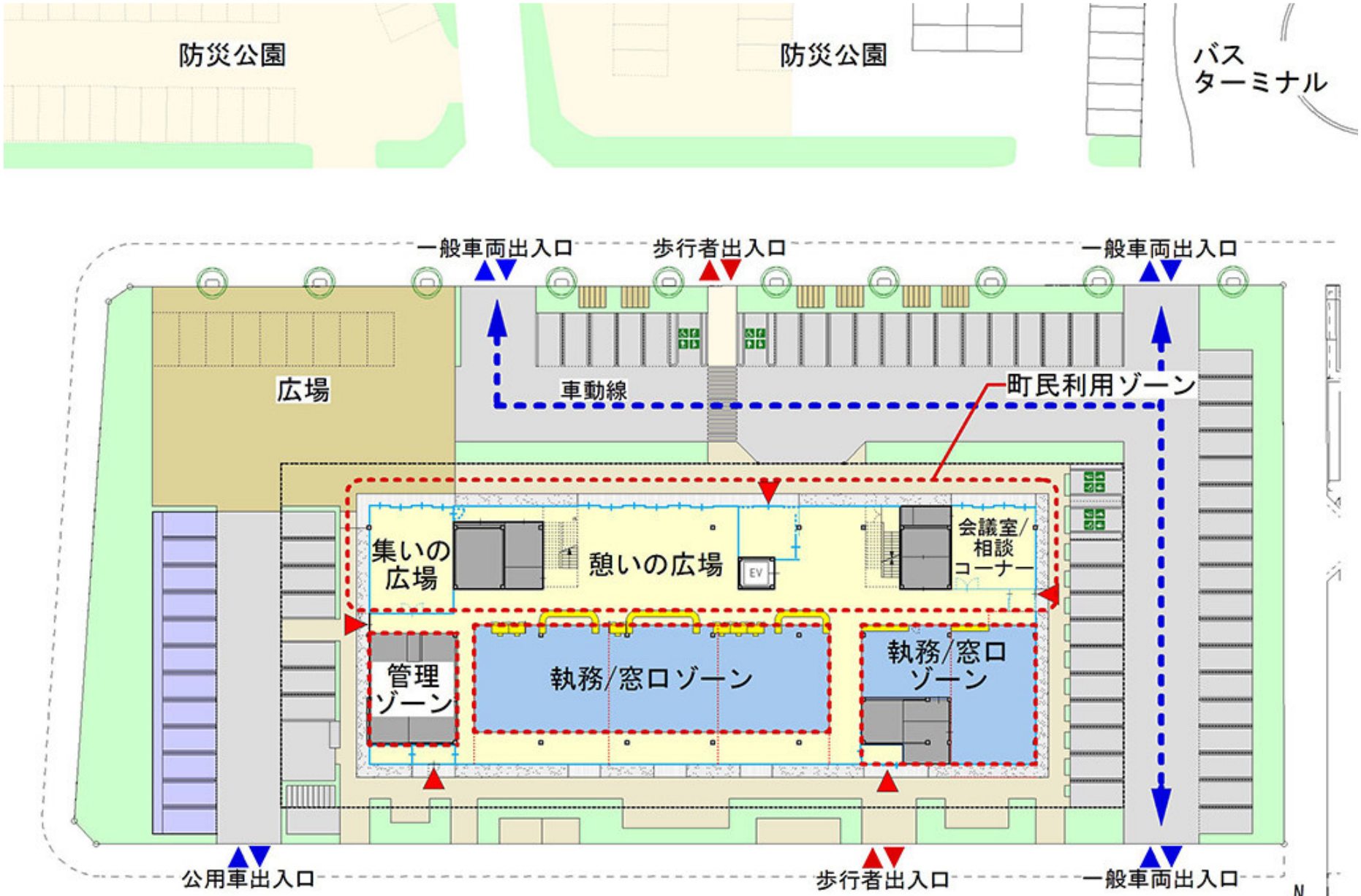
設計の初期段階から家具も含めて様々な人々の活動や、室内環境について検討を重ねています。

3層の明快な構成



建物は1階が窓口業務、2階が防災本部、3階が議会という明快な3層構成です。

平面計画



配置図兼1階平面図

黒い点線が大屋根の庇のライン、水色のラインから中が室内になっています。
メインエントランスは北側で、東側と南側にもエントランスを設け、西側は、時間外や職員の出入口を設けています。
1階には町民スペースを配置し、北側の屋外広場や軒下の町の回廊と一体的な利用ができる計画としています。

北側メインエントランスを見る

大屋根の下はガラス張りの為、見通しの良い空間です。

エントランスホールから窓口カウンターを見る

3層吹き抜けの明るく、開放的な空間です。

立体的な視線の行き交う場所です。
目的の窓口がすぐに分かる様、サイン計画等を検討しています。

北側の屋外広場では、フリーマーケットなどのイベントが出来るスペースとして計画しています。

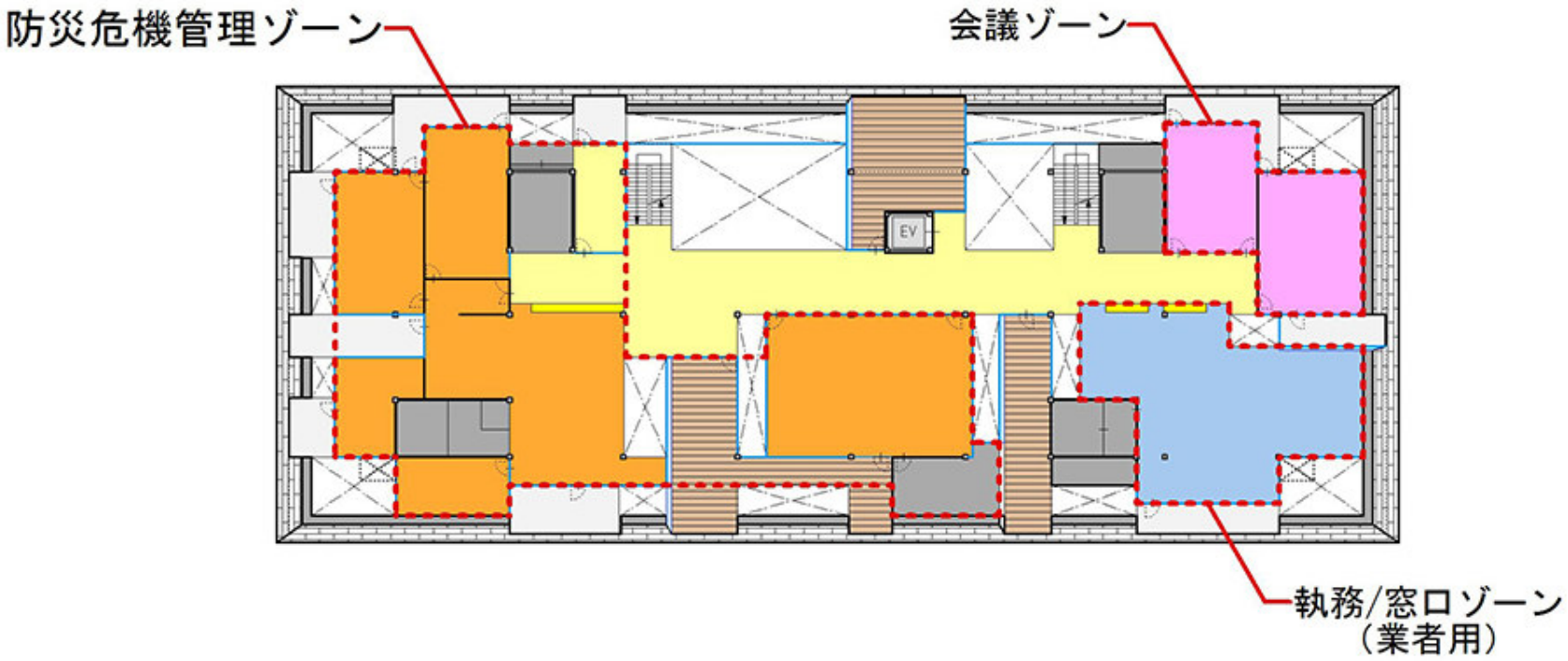
様々な活動〈アクティビティ〉のきっかけとなる広場

広場と町の回廊が活動のきっかけとなり、庁舎の敷地内だけで完結するのではなく、そのまま広がって行く様なイメージをしています。

見通しの良い執務空間

見通しの良い執務空間です。
執務空間の天井に所々吹き抜けが設けられ、出来るだけ自然光で明るさを確保できる様検討しています。

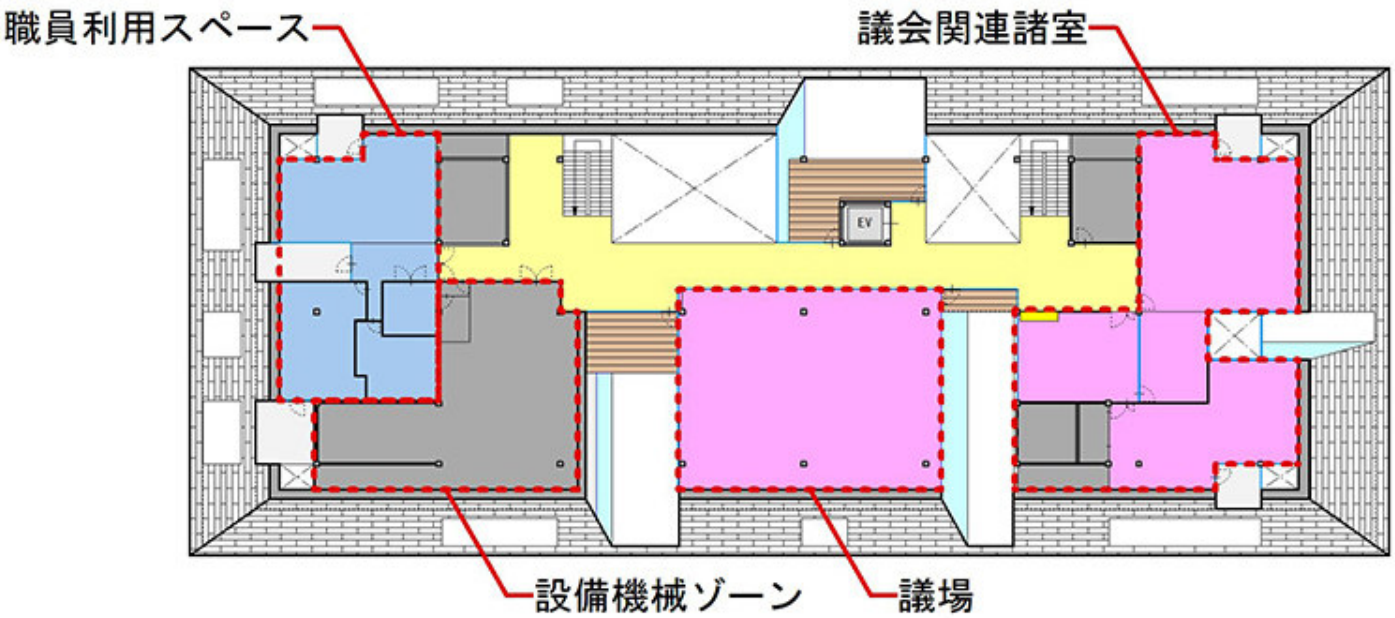
防災対策本部を中心としたレイアウト



2階平面図

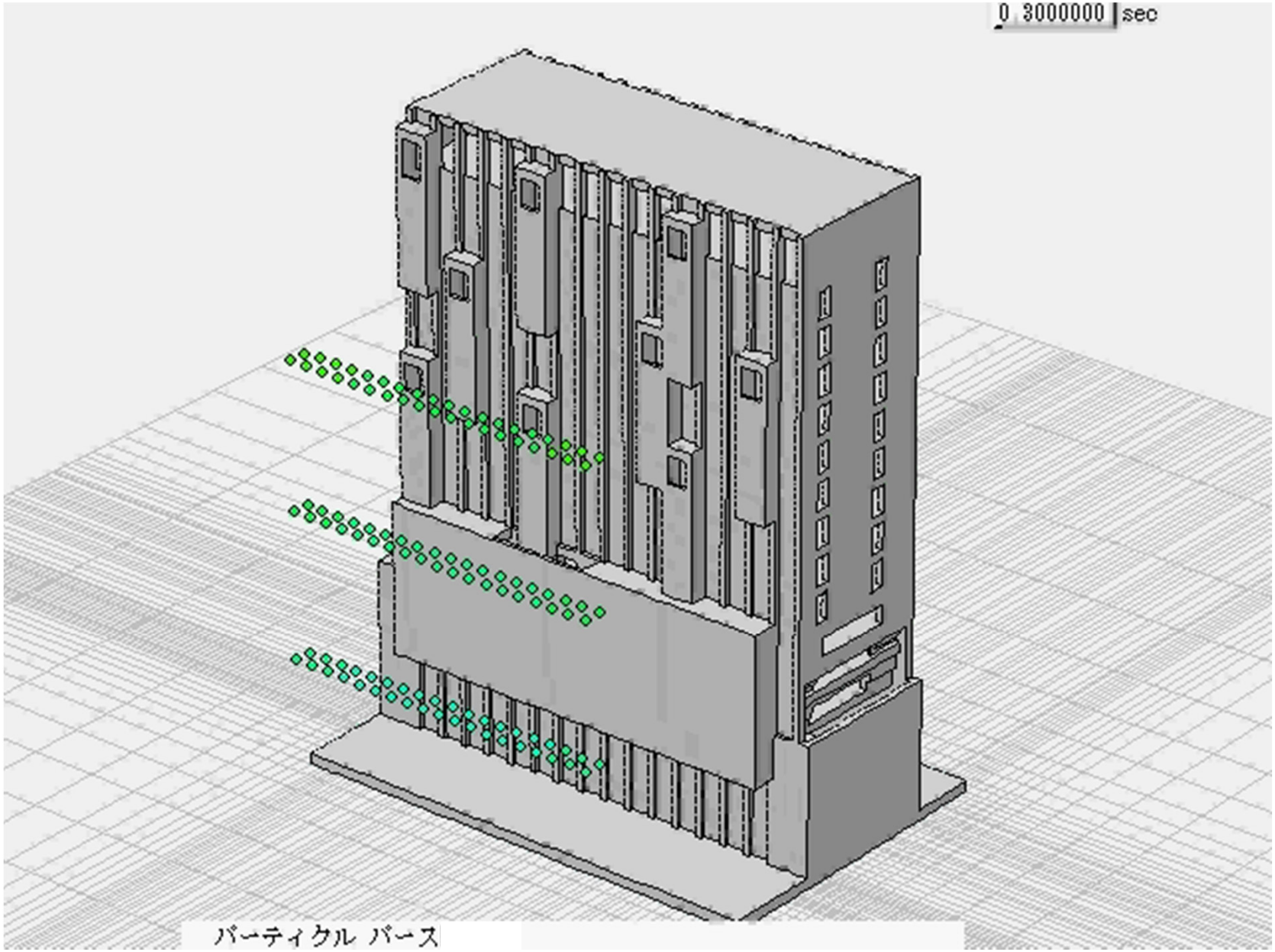
2階は町長室、副町長室、防災対策室、会議室、他比較的住民との対応が少ない課を配置します。

議会と職員のサポート空間



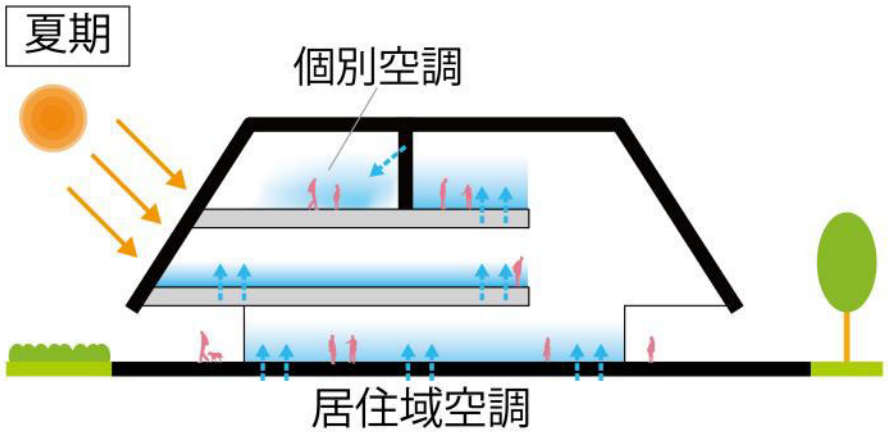
3階平面図

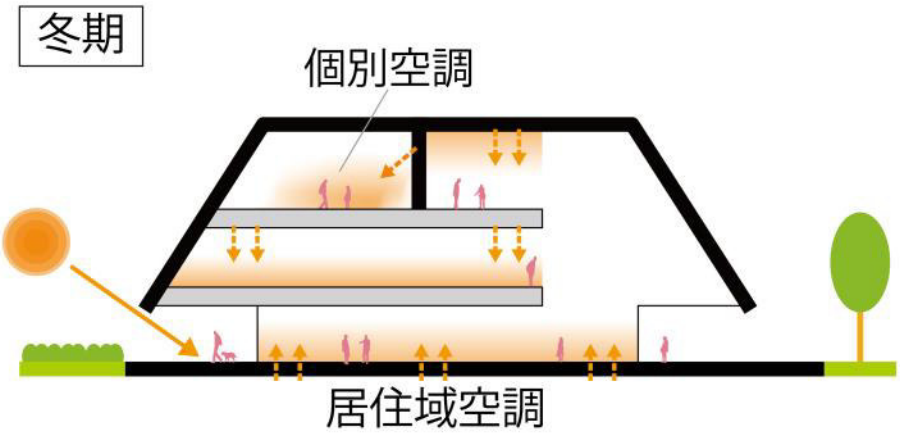
3階は議場など議会の関連諸室と更衣室などの職員用のサポート空間を配置しています。

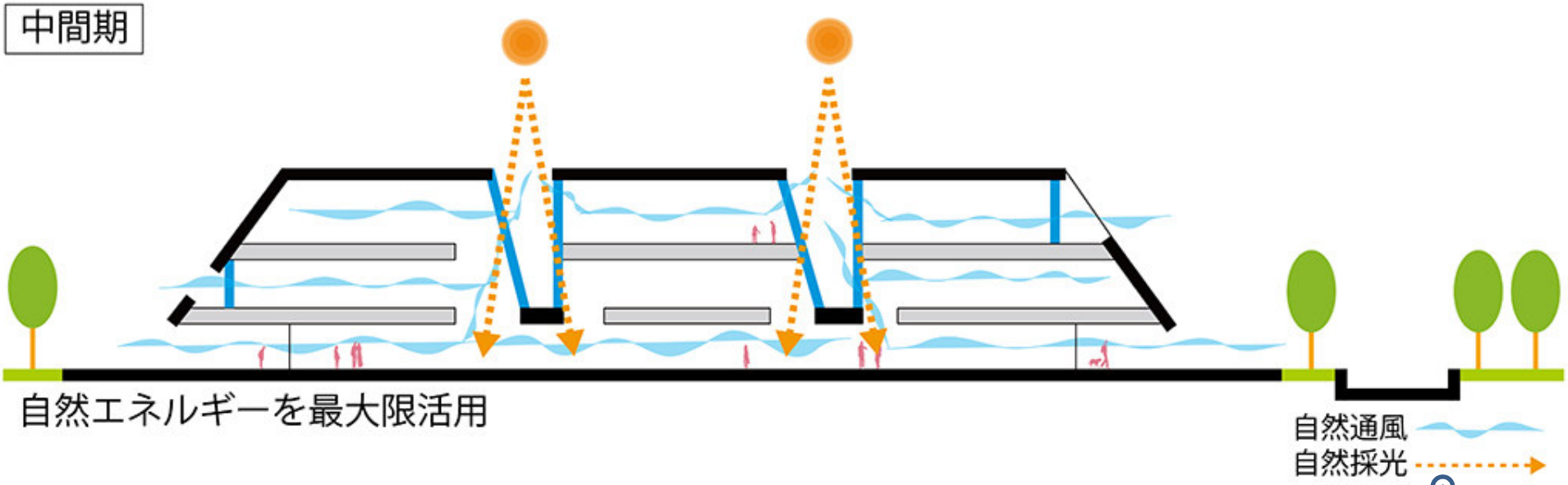


ベトナムで計画していた建物です。超高層でありながら微風が建物に流れる建築をつくるために風の流れをシミュレーションしたものです。今回も同様に風のデザインをして快適な光と風に満ちた室内環境をつくります。

環境計画

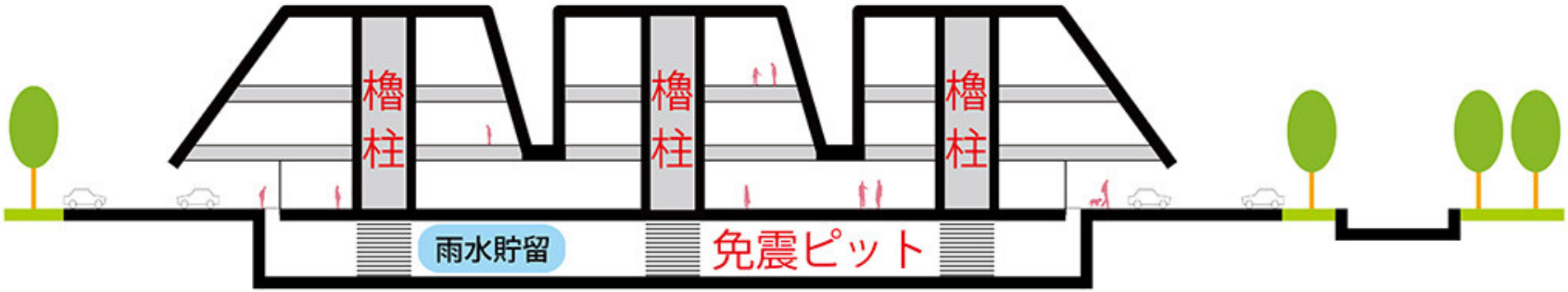






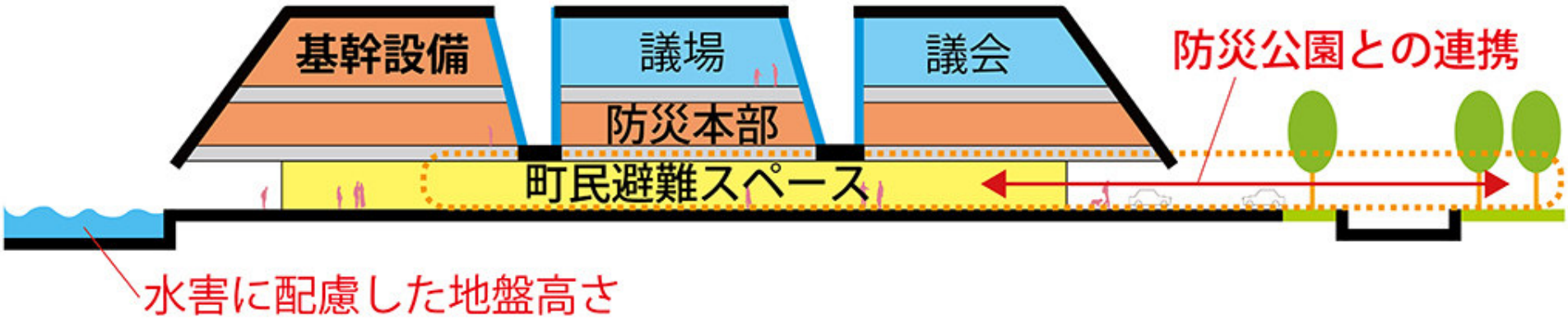
中間期は、東西方向に長い建築であることと、大屋根の利点を生かし、自然の光や風を最大限に活用します。
シミュレーションを行い、空調運転期間が短く、維持費の少ないゼロエネルギー建築を目指します。
夏・冬ともに、大空間の居住域空調、小さな空間の個別空調により最適化を図ります。

構造計画



地震時に家具の転倒や天井落下の被害が少ない免震構造を想定しています。
櫓（やぐら）状に組まれた柱で鉄骨の大屋根を支持します。高強度で安心安全な建築とします。

防災計画



被災時には町長との連携が図りやすい2階に防災対策本部を設置します。
地盤面を高く設定した浸水対策、ライフラインの確保、防災公園との連携、被災後の事業継続計画など、防災拠点として万全を期します。

庁舎を核としてふたつの回廊から展開していく人々の活動と、環境に対して重要な役割を果たす大屋根のふたつが北方町の新しいシンボルとなるような庁舎を作りたいと考えています。